

健康医療ナビ

なるほど! 知っ得

ただのもの忘れ? もしかして認知症?



今回お話を伺ったのは
小寺内科クリニック
院長 小寺 実 先生

国の推計によると、2025年には認知症高齢者が約700万人になるとみられている。認知症は誰もがなりうる脳の病気。正しく理解し、正しい対応ができるよう、認知症について小寺内科クリニックの小寺実先生に話を聞きました。

「認知症」と「もの忘れ」の境界線

認知症は、予備軍を含めると高齢者の4人に1人が発症すると言われています。認知症の診断は、物忘れのような認知領域の障害があるため、日常生活に支障があることが必須です。「加齢に伴う物忘れ」は、自覚があり、体験したことの一部をヒントとして思い出せるので、日常生活に支障はなく、判断力も低下しません。一方、「認知症による物忘れ」は、自覚がなく、体験した全てを忘れるのでヒントを出しても思い出せません。日常生活に支障を来たすだけでなく、判断力も低下しています。

認知領域の障害の検査として、改訂長谷川式簡易スケールやMMSE(質問形式)などが挙げられます。「アルツハイマー型認知症」と、その予備軍と考えられる「軽度認知障害」は、男性では買い物、女性では料理が出来るかどうかで、80%の正確さで区別できます。年に10%程度の割合で、軽度認知障害からアルツハイマー型認知症へと移行するので、その進行を予防する方策が模索されているのが現状です。

認知症の種類は、アルツハイマー型50%、レビー小体型20%、血管性15%、その他(前頭側頭型認知症、大脳基底核変性症など)15%です。

最も多いアルツハイマー型は、アミロイドβ蛋白が脳内に蓄積することが病因であるとされる仮説が有力ですが、解明にはまだまだ時間がかかりそうです。物忘れなどの認知領域の障害が数年の経過で進行し、MRIやCTで海馬の萎縮が特徴的とされています。

脳血流シンチは、頭頂側頭連合野、楔前部、後部帯状回での血流低下が特徴的で、診断の助けになります。治療薬として、抗Aセチルコリンエステラーゼ阻害薬と、NMDA受容体阻害薬のメマンチンがあります。いずれの薬物も認知機能の改善と進行の抑制効果があるとされています。

アルツハイマー型認知症の危険因子として、2型糖尿病、高血圧、脂質異常症、肥満、運動不足が挙げられます。脳梗塞の危険因子でもあり得るので、これらの治療は血管性認知症の予防にも貢献します。歩く

認知症の診断と治療薬

認知症と診断すれば治療可能か否かの鑑別をします。CTやMRIにより、外科的治療で治療可能な慢性硬膜下

血種、特発性正常圧水頭症、脳腫瘍などの有無を確認します。血液検査では、橋本脳症、甲状腺機能低下症、B12やB1欠乏症などの内科的疾患の有無を調べます。薬物やアルコール中毒、偽性うつ病の鑑別も大事です。

認知症の種類は、アルツハイマー型50%、レビー小体型20%、血管性15%、その他(前頭側頭型認知症、大脳基底核変性症など)15%です。

最も多いアルツハイマー型は、アミロイドβ蛋白が脳内に蓄積することが病因であるとされる仮説が有力ですが、解明にはまだまだ時間がかかりそうです。物忘れなどの認知領域の障害が数年の経過で進行し、MRIやCTで海馬の萎縮が特徴的とされています。

脳血流シンチは、頭頂側頭連合野、楔前部、後部帯状回での血流低下が特徴的で、診断の助けになります。治療薬として、抗Aセチルコリンエステラーゼ阻害薬と、NMDA受容体阻害薬のメマンチンがあります。いずれの薬物も認知機能の改善と進行の抑制効果があるとされています。

アルツハイマー型認知症の危険因子として、2型糖尿病、高血圧、脂質異常症、肥満、運動不足が挙げられます。脳梗塞の危険因子でもあり得るので、これらの治療は血管性認知症の予防にも貢献します。歩く

家族が認知症になられた場合には、介護保険を使ってグループホーム、デイサービス、ショートステイ、特別養護老人ホームなどを利用して介護の軽減を図ることもできます。本人と家族だけで悩みを抱えないで医療機関や行政に遠慮なく相談されることをおすすめします。

幻覚、妄想、攻撃性、興奮性などの精神症状を行動・心理症状(BPSD)と言います。BPSDは、便秘や体調不良などの身体的要因、気温の寒暖差や騒音などの物理的環境要因に加え、不適切な対応をする介護者などの人的環境で悪化します。この点を留意しなければなりません。患者さん本人と、家族を含む介護者が快適に生活を送るために、BPSDに対して適切に対応することは大切なことです。

幻覚、妄想、攻撃性、興奮性などの精神症状を行動・心理症状(BPSD)と言います。BPSDは、便秘や体調不良などの身体的要因、気温の寒暖差や騒音などの物理的環境要因に加え、不適切な対応をする介護者などの人的環境で悪化します。この点を留意しなければなりません。患者さん本人と、家族を含む介護者が快適に生活を送るために、BPSDに対して適切に対応することは大切なことです。

BPSD (周辺症状)

行動症状	心理症状
暴力・暴言	抑うつ・不安
徘徊・多動	幻覚
拒絶・抵抗	妄想
不潔行為	焦燥

認知症を正しく理解する

幻覚、妄想、攻撃性、興奮性などの精神症状を行動・心理症状(BPSD)と言います。BPSDは、便秘や体調不良などの身体的要因、気温の寒暖差や騒音などの物理的環境要因に加え、不適切な対応をする介護者などの人的環境で悪化します。この点を留意しなければなりません。患者さん本人と、家族を含む介護者が快適に生活を送るために、BPSDに対して適切に対応することは大切なことです。

認知症に関する不安や悩みは相談ください。私たちは皆様の健康をサポートします

病気の早期発見と早期治療のため健康診断を受けましょう

内科	循環器内科	整形外科
診察時間: 月 火 水 木 金 土 日 祝	診察時間: 月 火 水 木 金 土 日 祝	診察時間: 月 火 水 木 金 土 日 祝

院内にCT設置 一般健診 7,000円
循環器健診 33,000円
がん健診 22,000円

訪問診療・住診・健康診断 お気軽にご相談ください
サンシャイン・クリニック ☎029-839-3333

豊かな自然に囲まれた穏やかな環境で笑顔あふれる毎日をご提供します

社会福祉法人 愛信会
特別養護老人ホーム 静霞園
ケアハウス ポプラ館
ユニット型特別養護老人ホーム いちようの木
特別養護老人ホーム くさりの里

認知症対応型共同生活介護 定員18名(2ユニット)
グループホーム いちようの木 (地域密着型)
つくば市上岩崎835-6 ☎029-840-1050

今川医療福祉グループ

神経内科専門のキャリアを活かし、地域の「かかりつけ医」を目指します
サンルーナ 内科・神経内科
小寺内科クリニック

頭痛 めまい 手足のしびれ 麻痺

診療時間: 8:30~12:00 14:00~18:00
TEL: 029-869-8882
土浦市おおつ野2-1-2 (土浦国際病院並み)
サンルーナ小寺内科

家庭的な環境の中で心やすらぐ和やかな暮らしを。

認知症高齢者グループホーム だんらん
土浦市中央1957 ☎029-821-7071

特別養護老人ホーム 海の家
特別養護老人ホーム 大地と大空
特別養護老人ホーム 海の家

定員18名 全室個室
社会福祉法人 欣水会